

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
121AC14	実務基礎能力論 1B～4B	適性検査の傾向と対策	関 雄介・田中奏太 大野俊尚・田邊 友昭	1 年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	SPI 四則計算 割合 濃度 速度		
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	実務基礎能力論 1A～4A				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	近年、多くの企業の就職試験に適性検査が導入されている。適性検査は能力適性検査と性格適性検査の2つから構成されており、能力適性検査では主に国語(言語分野)や数学(非言語分野)などの実務に必要な能力が問われる。本講義では、社会人になった時に求められる実務をこなせる基礎能力の習得を第一の目的としており、主に非言語分野についての習熟を目指す。				
到達目標	計算能力の正確さとスピードの向上、文字変数を利用した解法の習熟等、適性検査に必要なスキルのブラッシュアップを目標とする。				
講義内容	SPI3、GAB などの問題及びこれらの問題に必要な数学について演習を行う。数多くの問題を解くことで、その解法の理解が進み、解答にかかる時間が短縮される。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	後期ガイダンス	計算の復習		
	第2講	食塩水の問題(1)	塩の量を求める		
	第3講	食塩水の問題(2)	濃度の公式を活用する		
	第4講	集合の問題	2つの場合、3つの場合		
	第5講	比率の問題	百分率、割合など		
	第6講	速さの問題(1)	通過算など		
	第7講	速さの問題(2)	動く歩道の計算		
	第8講	小テスト	前半のまとめ		
	第9講	計算の応用問題(1)	年齢算など		
	第10講	計算の応用問題(2)	鶴亀算など		
	第11講	推論の問題(1)	論理		
	第12講	推論の問題(2)	順序関係・位置関係		
	第13講	SPI 模試	言語、非言語の模試		
	第14講	資料の読み取り問題	数値算出の長文		
第15講	まとめ	適性検査の全体像			
指導方法	毎回、講義スケジュールに沿ったテーマで演習問題を実施し、解答およびその解説を行う。また、適宜、テキスト以外の資料を配付する。				
事前学習	これまでに学んできた数学の知見をおさらいしたうえで、この授業に備える。1時間30分程度の学習時間を目安とする。				
事後学習	授業内で解いた演習問題をあらためて解き、解法・解説とともに自分で他の問題に取り組んで、解法の定着を図る。1時間30分程度の学習時間を目安とする。				
成績評価方法	本試験(筆記試験)50%、平常点(授業内テスト等)50%で総合的に評価する。なお、コース分けによる成績結果の公平性の担保のため、単位取得時の評価はコースにより異なる。				
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法	随時、授業内でフィードバックする。				
テキスト	初回授業で指示する。				
参考文献	柳本 新二『「1日10分」から始める SPI 基本問題集 27年版』大和書房。				
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	実務基礎能力論A(前期)の本試験の成績により、1、2、3、4のコース分けを行う。				